

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】平成 26 年 1 月 30 日 (2014.1.30)

【公開番号】特開 2012-188643 (P2012-188643A)

【公開日】平成 24 年 10 月 4 日 (2012.10.4)

【年通号数】公開・登録公報 2012-040

【出願番号】特願 2011-206321 (P2011-206321)

【国際特許分類】

C 0 8 J 3/24 (2006.01)

C 0 8 J 9/18 (2006.01)

【F I】

C 0 8 J 3/24 C E S

C 0 8 J 9/18

【手続補正書】

【提出日】平成 25 年 12 月 9 日 (2013.12.9)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

ポリプロピレン系樹脂 100 重量部を、多官能性単量体 0.1 ~ 1 重量%を含む芳香族系ビニル単量体 40 ~ 100 重量部に由来する重合樹脂で改質した改質ポリプロピレン系樹脂粒子であり、前記芳香族系ビニル単量体に由来する重合樹脂の架橋に由来してゲル分率 10 ~ 40 重量%を示すことを特徴とする改質ポリプロピレン系樹脂粒子。

【請求項 2】

前記改質ポリプロピレン系樹脂粒子が、測定 1 回目の DSC 曲線において少なくとも 2 つのピークを有しかつ最も低い側のピークが 110 ~ 130 の範囲にある請求項 1 に記載の改質ポリプロピレン系樹脂粒子。

【請求項 3】

前記ポリプロピレン系樹脂が 5 ~ 10 g / 10 分の 230 におけるメルトフローレートをも有し、かつ前記改質ポリプロピレン系樹脂粒子が前記ポリプロピレン系樹脂より 1 ~ 5 g / 10 分低下した 230 におけるメルトフローレートを有する請求項 1 または 2 に記載の改質ポリプロピレン系樹脂粒子。

【請求項 4】

前記ポリプロピレン系樹脂の 2 回目昇温時の DSC 曲線による最初の融解ピーク温度が、125 ~ 145 である請求項 1 ~ 3 のいずれか 1 つに記載の改質ポリプロピレン系樹脂粒子。

【請求項 5】

請求項 1 ~ 4 のいずれか 1 つに記載の改質ポリプロピレン系樹脂粒子を予備発泡して得られた予備発泡粒子。

【請求項 6】

請求項 1 ~ 4 のいずれか 1 つに記載の改質ポリプロピレン系樹脂粒子 100 重量部に対して発泡剤 20 ~ 50 重量部を用いて含浸処理して発泡性改質ポリプロピレン系樹脂粒子を得、得られた発泡性改質ポリプロピレン系樹脂粒子を 0.1 ~ 0.2 MPa の圧力の加熱水蒸気で 5 ~ 60 秒間加熱することで予備発泡させて、嵩密度が 0.01 ~ 0.07 g / cm<sup>3</sup>である改質ポリプロピレン系樹脂の予備発泡粒子を得ることを特徴とする予備発

泡粒子の製造方法。

【請求項 7】

前記改質ポリプロピレン系樹脂粒子 100 重量部に対し 0.1 ~ 2.0 重量部の無機物成分をブレンドし予備発泡する請求項 6 に記載の予備発泡粒子の製造方法。

【請求項 8】

請求項 5 に記載の予備発泡粒子を型内に充填した後、型内体積に対して 20 ~ 50 % 増加のクラッキング条件下で水蒸気により型内成形することにより得られた発泡成形体。

【請求項 9】

前記発泡成形体が、7 日間の耐熱試験において  $\pm 1\%$  寸法変化する温度が 100 以上である請求項 8 に記載の発泡成形体。